

シルクロードを旅したガラス容器

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(公財) 京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



写真1 上賀茂神社出土ガラス容器片

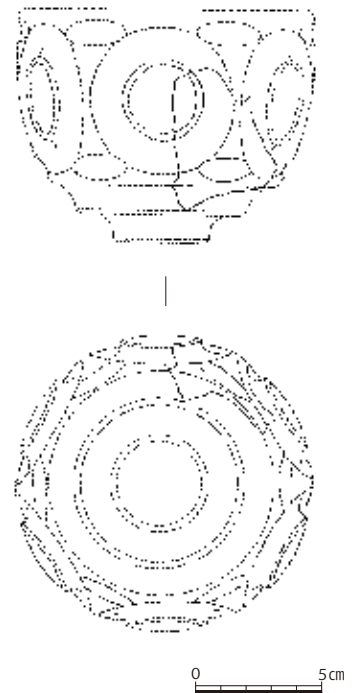


図1 ガラス容器復元図

『ペルシア古美術研究 ガラス器・金属器』
深井晋司 1968

はじめに 奈良の正倉院は「シルクロードの東の終着点」とも言われますが、正倉院蔵の白瑠璃碗はくろりのわんは、遙か遠方のローマと日本を結ぶ交易路を偲ばせるガラスとして有名です。それとともに古代シルクロード交易の存在を示す実物であるガラス容器の破片が、京都市考古資料館に所蔵されています。

採集経緯 この資料は1964年に京都市北区上賀茂本山町かもわけの賀茂別雷神社いもづち（上賀茂神社）の本殿敷地北方で、郷土史家の坂東善平氏によって採集されました。当時、本殿敷地を囲む土塀の外側に、旧土塀の崩壊した跡が延々と続いていましたが、その崩壊した土塀の近

くで土器・瓦片とともにガラス容器片が採集されたのです。

ガラス容器片の復元 ガラス容器片は6.0cm×4.2cm、厚さ約1cmの長方形の断片です。色調は透明のガラスで、表面には無数の気泡が見られます（写真1）。深井晋司氏の復元（図1）によると、高さ9.3cm、口縁部径11.4cmで、直径約5.8cmの二重円形切子装飾が施された厚手の碗形容器であったと推定されています。碗部と高台が連結する碗底の外縁のカーブから碗底の直径を復元すれば、直径約9.0cmの円弧が描けます。この円弧の周囲に、破片にみられる二重円形切子装飾を0.3cmの間隔で配置

すれば、ちょうど6個並びます。またこの装飾の間には、深さ約0.9cm、幅約2.6cmの楕円形の凹みが上下に配置されと考えられます。

ササンガラス このガラス容器は、ササン朝ペルシア（224～651年）諸説あり、現在のイラク・イラン周辺で作られた典型的なササンガラスと考えられています。一般に知られているササンガラスは、6世紀に作られたものが中心となります。型吹きまたは宙吹きによって器を製作した後、円文・浮出円文・二重円文のような文様をカットして施し、器壁が厚手である点が特徴的です。

チグリス川とユーフラテス川に

挟まれた地域では、5～6世紀のガラス工房の窯跡が発掘されています。ほかにも類品がカスピ海の南岸などから多数発見されているため、メソポタミアからイラン北西部にかけての地域で製作されたことがわかっています。上賀茂神社で採集したガラス容器片と類似している資料も出土していることから、この地域で生産されたと考えられます。

非破壊の蛍光X線分析 2015年、東京理科大学が、このガラス容器片に対して高エネルギー放射光蛍光X線分析を実施しました。試料にX線を照射して発生する蛍光X線のエネルギーを分析することで、その資料に含まれている元素の情報（化学組成）からガラス容器片の製造地を推定できる方法です。貴重な文化財を破壊することなく、X線を照射するだけで分析できるため、ガラス製の文化財を分析するのに非常に有効な方法です。

写真のガラス容器片を分析した結果、イラク中部にあるササン朝

の首都クテシフォンで流通したとされるガラスと、ほぼ同じ化学組成を持つことが明らかになりました。つまり、このガラス容器片の産地は、ササン朝ペルシアにあることを物語っています。

ガラス容器の伝来 これらのガラス容器はどのようにして遥か西方から日本へと伝来したのでしょうか。ササンガラスは交易品として非常に好まれ、イラク・イランをはじめ、ユーラシア全土と言ってよいほど広く出土しています。日本での出土品では、上賀茂神社のガラス容器片のほかに、福岡県沖ノ島祭祀遺跡の円文カット碗断片があります。また、所蔵品では、正倉院の白瑠璃碗、東京国立博物館の白瑠璃碗があります。

シルクロードの交易 よく知られているように、シルクロードは中国で作られた絹製品を求めた西域の商人たちによる交易ルートの総称で、主に「草原の道」「オアシスの道」「海の道」の三種類がありました（図2）。日本へ伝わったガ

ラスは、シルクロードでも最も古いとされる「草原の道」を通して伝来したと推定されています。この道の東から西へのルートは、朝鮮半島（韓半島）を經由し、中国を北上してモンゴルを中心とする草原地帯を進み、ロシア南部やカザフスタンのあるカスピ海・アラル海一帯を横目にトルコ北部の黒海周辺にまで至ります。

交易品としては、絹製品以外にも金や宝石などの貴金属、火薬、香辛料、陶器、製鉄や製紙技術など、幅広い物や文化が伝わりました。その中にはガラス容器も含まれていたのです。

ササンガラスの容器は、当初はローマンガラスに倣って器壁が薄かったのですが、厚手になったのは、このような陸路の長距離交易に適するようにしたためではないでしょうか。そのため8,000 kmにおよぶ道のりを壊れることもなく、隊商のラクダの背に揺られて運ぶことができたのでしょう。

（李^イ 銀眞^{ウンジン}）



図2 シルクロード地図 天理ギャラリー第162回展「華麗なるササン朝」（天理参考館2017）図録に加筆